

模試を活用しよう!

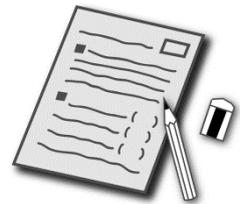
1 なぜ模試を受けるのか

模試を受けたら結果だけを見ておしまい、という人は多いと思います。でも、それはとてももったいないこと。模試には勉強に役立つことがたくさんあります。

- 自分の今の実力がわかる
- 今後の学習の計画を立てやすくなる
- 本番の緊張感を体験したり、試験の受け方を練習できたりする

模試のもっとも大切な目的は、自分の今の実力を知り、本番までの勉強計画に反映することです。結果が悪かったときこそ、自分がどんな失敗をしやすいかを知るチャンス。模試で苦手分野がわかれば、弱点を克服するための計画を立てることもできます。さらに、そうした課題への対策が合っているのかも、模試を再び受ければ確認できるのです。

いつもは解ける問題なのに試験では緊張して頭が真っ白になった！そんな経験をした人もいると思います。試験で緊張するのは当たり前のこと。本番で実力を発揮するためにも、模試で緊張に慣れておくこと、試験の受け方をシミュレーションしておくことが大切です。



2 模試を受けるときのポイント

模試は、ただ何となく受けて解けばいいというものではありません。模試を本物の入試だと思って挑んでこそ高い効果が得られます。

①本番と同じ心構えで取り組む

模試では、前日の持ち物の用意、試験会場への行き方などの下調べ、知っている人がいない中で感じるストレスなど、入試本番さながらのことが体験できます。会場では、塾や学校の友達とはしゃいだりせず、本番と同じ緊張感を持って試験に取り組みましょう。

②時間配分を練習する

どの問題から解くか、どれくらいの時間をかけるか、最初にペース配分を決めて取り組みましょう。予想以上に時間がかかってしまった場合、どの問題を優先するか、残り時間をどう使うかといった判断力は、練習しないと身につかないもの。弱点は、苦手な教科や単元だけとは限りません。模試は、失敗・成功といったさまざまな経験を増やし、本番で役立つテクニックを磨ける場でもあります。



③見直しと解答メモを習慣づける

模試だからと手を抜かず、時間が余ったら必ず終了直前まで見直しをしましょう。習慣にしておかないと、本番でもうっかり忘れてしまいます。

また、あとで自己採点をするために、できる範囲で問題用紙に答えをメモしておきましょう。その時も時間配分を考え、長文の解答は無理に写さず要点だけメモをしましょう。

④やりがちなミスに注意する

計算ミスや誤字など、自分がよくやりがちなミスに注意しながら解き進めましょう。そのためには、まず自分がどういう時にミスをしがちなのか原因を突き止め、どうやったらそれを防ぐことができるか対策を立てておくことが必要です。

3 模試は受けたあとも大事

模試を受けた当日は、解放感からついつい遊んでしまいがち。ですが、受けただけで終わらせないことが模試では大切です。

①その日のうちに自己採点

問題用紙に書いた自分の解答のメモを見て、まずざっくりと自己採点をしましょう。当日なら、自分がどうやって解いたのかをよく覚えているのでミスのポイントが見つかりやすく、効果的な復習になります。

②解き直して実力をチェック

自己採点で間違えていた問題は、解説を見ずにもう一度解き直しをしてみましょう。それで解けるようなら、「時間が足りない」「不注意」などが間違えた原因。落ち着いてやれば解けた問題です。

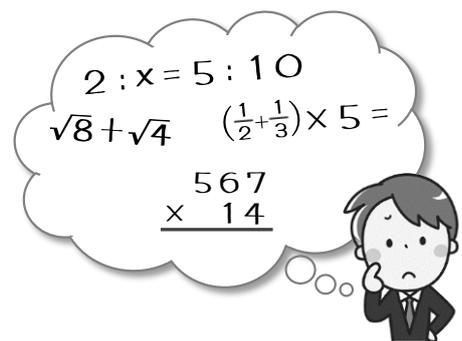
でも、解説を見てもまったくわからない場合は、基本から確認が必要な分野です。テキストでしっかり復習しましょう。

③自分によくあるミスを確認→原因調査

ミスを繰り返す人には、ミスのパターンがあるもの。自分はどんなところで、何が原因でミスをしやすいかを突き止め、対策をしておきましょう。

✓ 計算ミスが多い

- 暗算ミスが多い人は、計算を急ぎすぎたり、暗算に頼りすぎているのかもしれない。
- 途中式をはぶきがちな人は、解いている途中でどこを計算しているかわからなくなってしまった可能性があります。
- ルートや比の計算など決まったところでミスをする人は、計算手順を間違えて覚えてしまっているのかも。



✓ 誤字・脱字が多い

自分でも読めないような、みだれた字を書いていませんか？
他の人が読める文字、内容が伝わる文章を意識して書きましょう。

模試は合否判定という結果にとらわれがちですが、大切なのはその結果を普段の勉強へ活かすこと。

課題への対策を立て
模試で試す

模試の結果で
復習する

答案や返却資料から
弱点克服の対策を練る